

3. 河川環境保全のための調査計画（案）

(1) 環境調査の基本方針

工事による環境変化の程度を把握するため、事前に環境調査等を実施する。
 事前調査を踏まえた保全対策を検討する。
 工事による周辺環境の改変状況や回復状況等を把握するため、工事終了後に環境調査を実施する。
 なお、環境調査の継続期間や調査対象区間、注目種ならびに保全対策の設定にあたっては、事前に学識経験者等にご意見を伺う。

(2) 環境調査の内容

現況把握(事前調査)

既存の環境調査結果や今回新たに補足調査する事前調査により、現況の自然環境や貴重種等の有無を把握する。また、河床掘削等に伴う直接的な影響(生息・生育場の変化)及び間接的な影響(河床変動)を把握する。

保全対策

既存調査結果や事前調査を基に、実施可能な範囲内で保全対策を検討する。

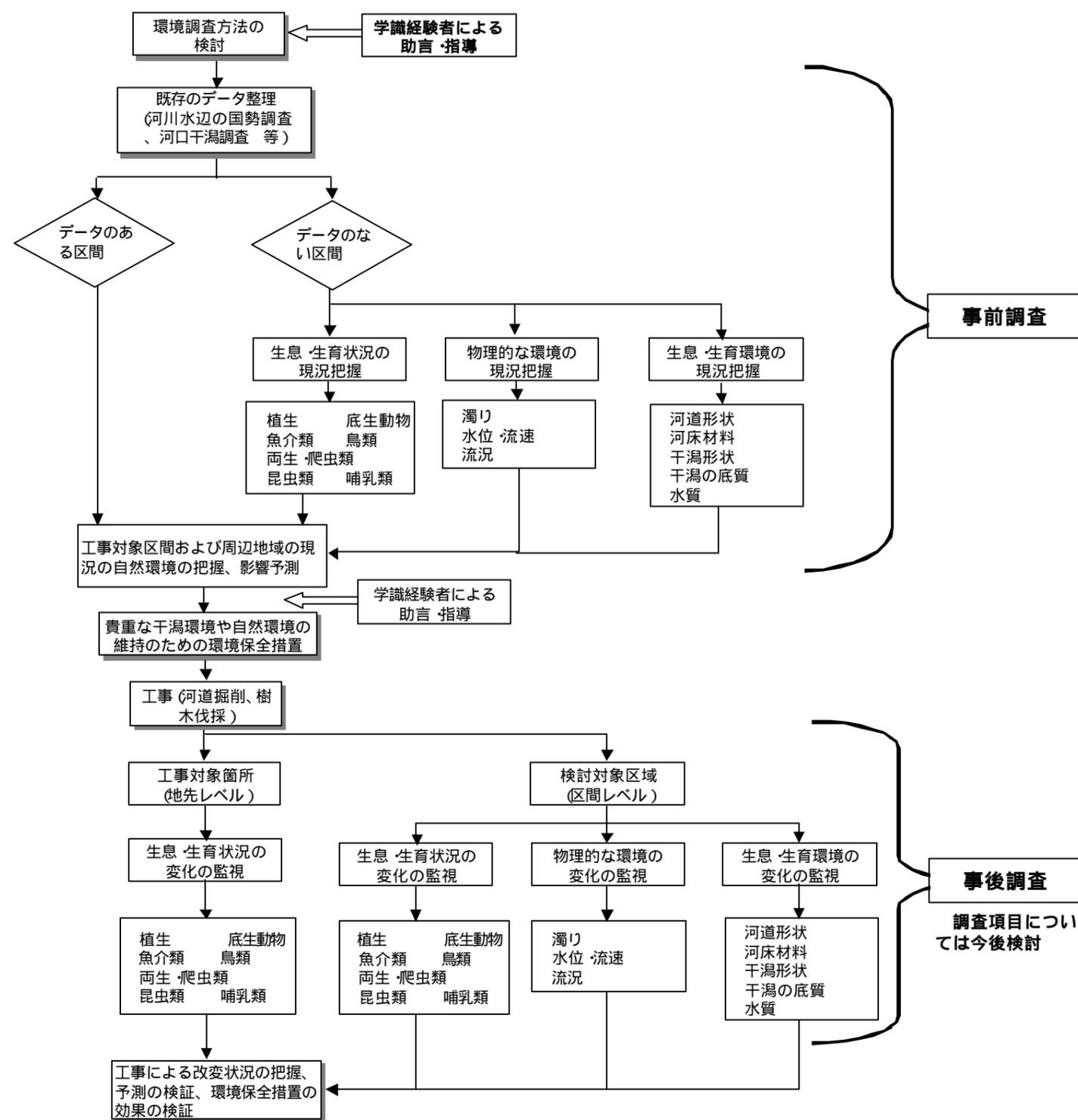
工事中・工事後の環境調査(事後調査)

工事対象区間および周辺地域において、工事による環境の変化や動植物に与える影響を把握できるように、環境調査(事後調査)を実施する。なお、事後調査については、注目種の設定を含め、学識経験者等のアドバイス・ご指導を受けながら今後検討していく。

注目種選定の視点(案)

- 群落(植生) : ヤナギ河畔林、ヨシ・ツルヨシ群落、塩生植物群落(シオクグ等)
- 植物相 : 氾濫原野の植物(1年草タデ等)、塩生植物(河口域)、二次草地・乾性草地の植物(フジバカマ等)
- 底生動物 : 潮間帯・干潟
- 魚類 : 緩流域・岸辺の移行帯の周辺、ヨシ・ツルヨシの周辺
- 鳥類 : 繁殖場所、ねぐら・休息場所、集団分布地
- 両生・爬虫類 : 繁殖場所、生息場所
- 昆虫類 : 生息場所
- 哺乳類 : 河畔林や河川草地を生息場とするジネズミ、ヨシ帯を繁殖場とするカヤネズミ

(3) 環境調査のフロー



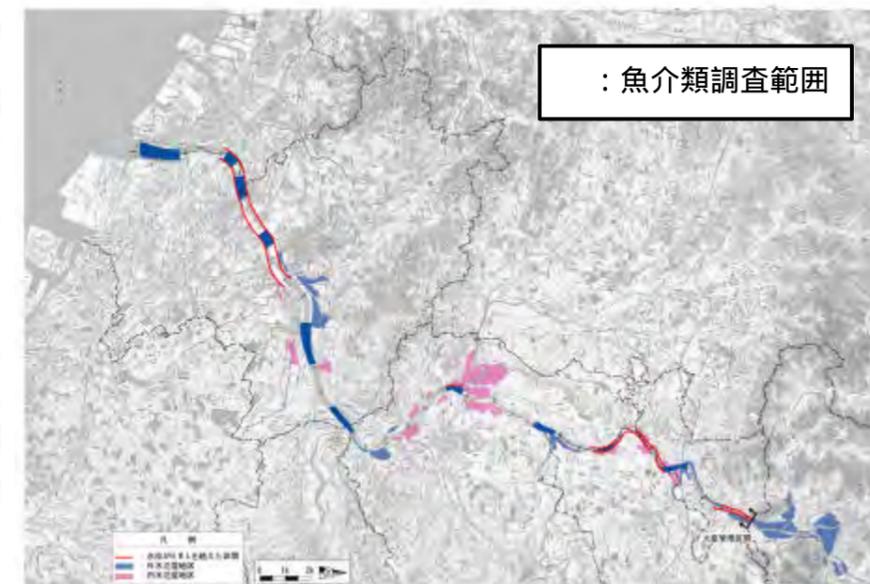
参考資料（既存の加古川河川水辺の国勢調査範囲）



植物



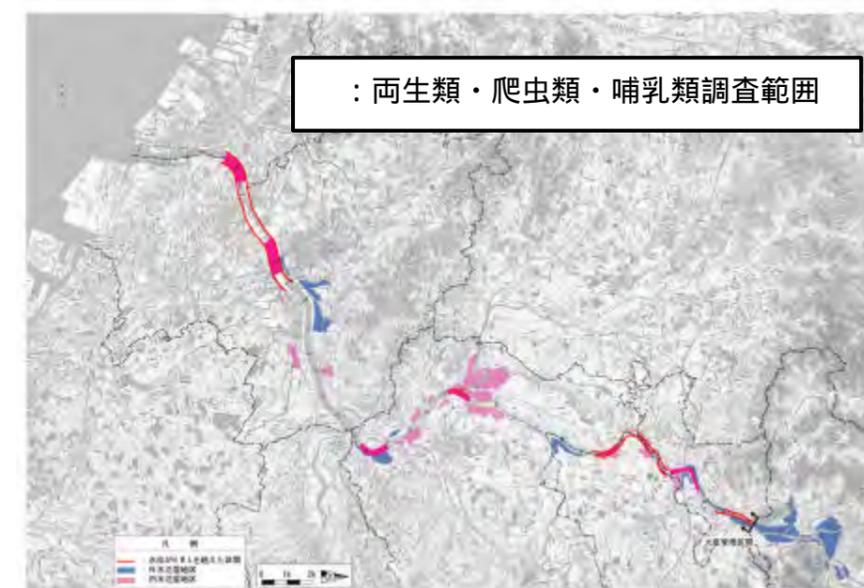
底生動物



魚介類



鳥類



両生類・爬虫類・哺乳類



陸上昆虫類